

2018年

12月号

農林水産省  
北海道農政事務所  
北見地域拠点

# ず～むあっぷ☆ オホーツク

チミケップ湖 津別町

## 天然ハチミツにこだわり70年！ 6月には直売所をオープン！

(株)菅野養蜂場  
(訓子府町)



### ☆ 伝統的な養蜂

(株)菅野養蜂場は、家族3人で伝統的な養蜂を営んでおり、代表取締役の菅野富二さんで3代目になります。

自家採蜜100%、添加物・保存料を使用せず、不純物のろ過のみを行った純粋なハチミツにこだわり、花の種類毎の味を楽しむことができます。

また、農薬の影響を避けるため山林深くで採蜜し、これまで残留農薬の検出歴はありません。



【こだわりのハチミツ】

ミツバチは寿命が約1ヶ月と短い繊細な生物です。養蜂には手つかずの自然が不可欠であり、菅野養蜂場では、訓子府町を拠点に、冬期は静岡県伊豆市修善寺に移動、繁殖とヤマザクラの採蜜後、5月に訓子府町に戻ってきます。

5月のタンポポ、6月のクローバー、アカシア、8月の菩提樹、百花蜜と採蜜が続きますが、自然環境・天候の影響により、思うように採蜜ができないことも珍しくないそうです。伝統的な手法にこだわり、手間をかけた分、菅野さんのハチミツは、香り、風味にこだわってお客さん、安全志向のお客さんから高い評価を得ています。

### ☆ 地元小学校で養蜂学習

「なぜ花は蜜を出すの？」と菅野さんは子ども達に問いかけるそうです。ミツバチの生態を通じて自然環境の大切さを学ぶ授業を15年以上続けています。

ミツバチの管理からハチミツのろ過作業を通じ、植物とその蜜に集まる虫、そして生態系の成り立ちを自らの体験で学ぶことは、子ども達の財産になることでしょう。



【直売所店内】



### ☆ 直売所を6月にオープン

菅野養蜂場は訓子府町市街地に直売所をオープン！中央に菩提樹をイメージして造られたディスプレイ棚は一見の価値あり。ミツバチが暮らす山林にいるかのような雰囲気漂います。

直売所は買い物客はもちろん、地域の子供達、奥様達の憩いの場としても活用されています。地域の方々を巻き込んだハチミツや蜜蝋を使用した石けん、ハンドクリーム作りなどのイベントを開催しており、クリスマスが近い12月にはキャンドル作りを計画中です。



# 第25回

# オホーツク農村女性のひろば

2018.11.20  
Tue

に参加しました！



パネルディスカッションの様子

## パネラーのご紹介

元普及員

カフェレストラン  
きんぎょ食堂だいす  
渡辺 次子 さん  
(美幌町)



主婦から起業

オホーツクベーグル  
倉本 ひと恵 さん  
(北見市)



生産者

丘Café  
辻本 礼子 さん  
(斜里町)



パン屋勤務から自ら起業

石窯パン工房まる  
丸山 葉司 さん  
(小清水町)



オホーツク管内の農村女性グループで構成される「オホーツク農村女性ネットワーク”kirariウエルカム”」では、年に1度女性農業者がお互いの技術や情報を共有し、経営や社会参画の足がかりとなる能力の研さん、創出の場として「オホーツク農村女性のひろば」を開催しています。

25回目の今年も、「Welcome 農業！Part3 ～揚げよう！地域でつながる“食”と“職”～」をテーマに、東京農業大学の小川繁幸助教による講話、地域食材にこだわった食堂を開いた渡辺次子さん（美幌町）による講演がありました。

午後からは「『職人』として地域の食材に込める想い」をテーマにパネルディスカッションが行われ、地元の食材への想いや起業時の苦労などを話されました。

「生産の職人（農家）」と「製造の職人（飲食業者）」双方の地元食材に対するこだわりを聞くことができ、オホーツクの新しい食文化を作りたいという想いが伝わってきました。

また、参加している生産者の方が質問に答える場面もあり、会場全体には常に笑い声が響き、和やかで楽しい時間で、地域のつながりの大切さ・強さを知る機会となりました。

**編集後記** 農政事務所で働き始めてちょうど1年が経ち、農業や漁業のことはまだまだ知らないことが多いですが、新しい知識が増えた1年でした！大人になってから学ぶことはやっぱり楽しいです☺！（おた）

編集：農林水産省北海道農政事務所 北見地域拠点  
〒090-0018 北見市青葉町6-8 北見地方合同庁舎  
TEL 0157-23-4171 FAX 0157-23-5358  
北見地域拠点HP <http://www.maff.go.jp/hokkaido/kitami/index.html>